

CITIZEN

100th
Anniversary

シチズングループ
CSR報告書
2018

CITIZEN GROUP CSR REPORT

【ダイジェスト版】



100th Anniversary CITIZEN

シチズングループの企業理念

市民に愛され市民に貢献する

シチズンの掲げる企業理念「市民に愛され市民に貢献する」とは、「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じて世界の人々の暮らしに広く貢献することです。

シチズングループは 2018 年、創業100周年を迎えました。

この100年、私たちは「CITIZEN=市民」の一員として市民の皆さまの暮らしに貢献していきたい。

そんな想いを胸に、時を刻んできました。

そして次の1年、10年、100年へと。

すべての1分、1秒を大切にしながら、世界中の皆さまとともに歩み続けてまいります。

私たちシチズンは、これからも真摯なものづくりで進化に挑戦し続けます。

「市民に愛され市民に貢献する」企業として、社会とともに時を重ね、

皆さまの生活に価値をご提案していきます。

BASELWORLD 2018

2018 CITIZEN GROUP CSR REPORT contents

- 01 企業理念
- 02 目次・編集方針
- 03 トップメッセージ
- 05 **特集** 創業100周年記念
 - 05 社会とシチズンの100年
 - 07 創業100周年記念プロジェクト
- 09 シチズングループの中期経営計画と事業活動
- 11 シチズングループのCSR活動
- 14 ステークホルダーとマテリアリティ
- 15 マテリアリティへの取り組み
 - 15 コーポレート・ガバナンスの強化・リスクマネジメントの徹底・コンプライアンスの徹底
 - 17 働きやすい職場環境づくり
 - 18 責任ある調達の推進
 - 19 環境イノベーションの促進
 - 20 社会貢献活動の促進
- 21 コミットメントと社会からの主な評価・企業概要



表紙: 第一号製品の16型懐中時計“CITIZEN”

シチズン時計の前身である尚工舎時計研究所が創立されたのは1918(大正7)年、第一次世界大戦の終わった年で、当時、わが国の携帯時計の主流は輸入の懐中時計でした。創業者山崎龜吉は国産化への強い意志で創立6年半後の1924(大正13)年、独自設計による第一号の懐中時計を完成させました。山崎は親交のあった東京市長の後藤新平氏にこの時計の命名を依頼。後藤氏は「永く広く市民に愛されるように」との思いから、市民を意味する“CITIZEN(シチズン)”と名づけました。この名は後の社名の由来となります。

本ダイジェスト版概要

シチズングループは、すべてのステークホルダーの皆さまにCSRの取り組みをご理解いただくことを目指し、CSRに関する活動状況をご報告します。本ダイジェスト版では、創業100周年特集記事、シチズングループのマテリアリティの選定経過、および各マテリアリティへの取り組み状況をご報告しています。

編集方針

「シチズングループのCSR WEBサイト」では、本ダイジェスト版の内容も含め、事例紹介や環境・社会面のデータを含めたより詳細なCSR活動の取り組みを開示しています。
 報告対象期間: 2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)
 本ダイジェスト版発行時期: 2018年6月
 経済データ報告対象組織: 国内20社、海外77社(計97社)
 環境データ報告対象組織: 国内20社、海外15社(計35社)
 免責事項: 本報告書には将来予測も記載しています。これらは記載した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性もあります。
 参考としたガイドライン: 「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード」
 外部保証: 開示情報の網羅性が不十分なために見送っています。



WEBサイト(詳細版)

WEBサイトでは、より詳細なCSR活動の取り組みを開示しています。
<http://www.citizen.co.jp/social/index.html>



冊子(ダイジェスト版)

マテリアリティへの取り組み状況を中心に、シチズングループのCSRを分かりやすくお伝えしています。





次の100年も「市民」の皆さま
「シチズン」として、グループ
社会の持続的発展に寄与し
に寄り添う
一丸となり、
てまいります。

CITIZEN

2018年の今年、シチズングループは創業100周年を迎えました。先人たちの並々ならぬ努力と苦労が偲ばれ、非常に感慨深く思うのと同時に、これを契機に次の100年に思いを巡らせることこそが、100周年を迎えることの意義であると考えています。これからの100年は、ITやAI技術の急速な進歩やそれに伴うライフスタイルの変化、消費者の多様化などにより、当グループも前例のない局面に突き当たることになるでしょう。このような急速に変化する環境の中で、社会のニーズに応えながら事業を成長させていくためには、今、何を成すべきなのか、難しい舵取りを迫られていると認識しています。

2018年度は、創業100周年であると同時に、中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の最終年度でもあります。前年度は、時計事業において、東京・銀座の商業施設「GINZA SIX」に、シチズンウォッチグループの主要ブランドを世界最大級のコレクションで展開する初のフラッグシップストア「CITIZEN FLAGSHIP STORE TOKYO」をオープンする等、マルチブランド戦略を推し進めました。また、時計事業に次ぐ第二の柱である工作機械事業は、好調を維持しており1年前倒しで目標を達成しました。現行の中期経営計画を総括するに当たっては、時代の変化を先読みした経営の必要性を改めて認識しているところです。

このような中、次期中期経営計画では、今後の成長に向け、シチズングループの総力を合わせた新たなシナジーを創出するため、より抜本的な取り組みが必要と考えています。時計製造で培われた技術を

活かした多角化経営が進んできたシチズングループでは、その過程で事業間のシナジーが十分には創出されずにきました。今後はシナジー創出に向け、グループ・ガバナンスや人材育成を強化し、グループ一体体制をより強固にまいります。

創業100周年を機に開始した「シチズン社会貢献活動派遣制度」は、そうした考えに基づいた取り組みのひとつです。国内外における様々な社会貢献活動にシチズングループの従業員がともに従事することで、外の世界を知り、視野を広げ、新たな価値観を持ち帰ることで、今後のシチズングループの事業成長や組織の活性化、そしてグループ一体感の醸成にも活かしてほしいと考えています。

私たちが「真のグローバル企業」として、世界中の人たちに受け入れられ必要とされる企業になるためには、シチズングループが生み出す製品やサービスのみならず、ものづくりの背景にある企業姿勢そのものが社会から評価されること、すなわち、事業活動のすべてが企業そのものの価値に直結することを認識しなければなりません。2017年度は、シチズン電子による一連の不適切行為により、ステークホルダーの皆さまには多大なるご心配とご迷惑をお掛けしました。この事象を契機として、グループガバナンスを強化し、従来のグループリスクマネジメント委員会によるリスク管理に加え、一昨年改定した「シチズングループ行動憲章」の浸透や、グループ品質コンプライアンス委員会におけるモニタリングなどを通じ、グループ全体におけるコンプライアンス意識を、より一層強化してまいります。

シチズングループのマテリアリティ(重要課題)は、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を実践し、社会とともに持続的に発展していくために、国連の持続可能な開発目標(SDGs)への貢献も視野に入れながら、グループ全体で注力すべき課題として整理したものです。「コーポレート・ガバナンスの強化」「リスクマネジメントの徹底」「コンプライアンスの徹底」「働きやすい職場環境づくり」「責任ある調達推進」「環境イノベーションの促進」をマテリアリティとして取り組みを進め、毎年実績を開示していますが、今後は、「社会貢献活動の促進」を加えるなど、社会環境の変化に応じた見直しや、実効性の更なる強化に向けた目標管理が必要になるものと認識しています。

最後になりますが、社名である「シチズン」が表す「市民」の定義について尋ねられることがあります。この言葉は我々にとって非常に大切なものですが、その定義や捉えられ方は時代によって変わっていくものです。「市民」の意味を考え、議論を深め、その時代における「市民」のニーズに応えながら、常に「市民」の皆さまに寄り添うのが我々「シチズン」です。この想いをグループ全体で理解・共有し、実践していく努力を通じて、社会の持続的発展に寄与してまいります。

2018年6月

シチズン時計株式会社
代表取締役社長

戸倉敏夫

特集 創業100周年記念 | 社会とシチズンの100年



市民の一員として、市民に貢献するものづくりを、次の100年も。

シチズングループは2018年、創業100周年を迎えました。1918年に「懐中時計を国産化したい」という思いのもと、シチズン時計の前身である尚工舎時計研究所創立以来、私たちは「CITIZEN=市民」の一員として、市民の皆さまの暮らしに貢献していきたい、という想いを胸に時を刻んできました。時計から始まったシチズンのものづくりは、現在では工作機械や情報機器、LEDに至るまで製品分野を広げてきました。また、日本発のものづくりを世界に発信すべく、いち早く時計の輸出や、技術連携、海外拠点の設立を行うなど、積極的に世界へ展開してきました。

これまでの100年を大切にしながら、これからもシチズングループは、世界中の皆さまとともに歩んでまいります。



関連情報 「創業100周年記念サイト - 製品の歴史 -」

<http://www.citizen.co.jp/100th/history/index.html>

- 製品分野の拡大
- 世界への展開
- 社会への貢献

1965年 事業経営
西ドイツに
時計販売事務所開設

欧州への本格的輸出。

1965年 電子機器
電動加算機「CA10」

時計製造で培った精密技術を活かすべく、事務機器分野に進出。



1960年 時計
国産初の視覚障がい者向け腕時計「シチズン シャイン」発売



1960年 事業経営
インド政府と技術援助契約調印

工作機械・時計部品の輸出。

1960年 事業経営
米国ブローバ社と提携

米国輸出を本格化。



1970年 工作機械
主軸台移動形NC自動旋盤「D16」

世界初NC自動旋盤登場。ベストセラーマシンとなる。

1970-1979 (自由)

1935年 時計
シチズンK型

シチズン初の女性用手巻き腕時計。



1955年 時計
中国向け腕時計の輸出開始

1930年
シチズン時計株式会社設立

1918-1959 (原点・前進)

1918年
尚工舎時計研究所創立。

シチズン時計の前身となる。

1924年 時計
CITIZEN

現在の社名を冠する懐中時計第一号完成。



1957年 計測機器
計測機器「トリメロン」
「ニューメロン」



1968年 事業経営
シチズン・デ・メキシコ設立

メキシコにシチズン初の海外腕時計製造・販売会社設立。

1966年 時計
エックスエイト(X-8)

国産初の男性用本格的電子式腕時計。当時、一年間止まらないという驚異の性能を実現。



1976年 時計
クリストロン ソーラーセル

世界初の太陽電池充電のアナログ式クォーツ腕時計。電池交換を不要とする先見的エコ製品開発の最初の成果。



1978年 水晶
シリンダー型エッチング音叉水晶振動子「CFS145」

耐衝撃性に優れており、携帯機器に最適。通信/AV/OA/計測機器、各種時計のクロック源となる。



1986年 時計
腕時計年間生産量世界一(ムーブメント換算)



1996年 時計
エコドライブ

腕時計初のエコマーク取得。

1995年 時計
THE CITIZEN

シチズン時計(株)創立65周年に発売された業界初の10年保証の年差±5秒のアナログ式クォーツ腕時計。



1983年 健康器具
ICセンサー電子体温計「CT-20」

世界初ICセンサー搭載。



1982年 時計
国際陸上競技連盟のシチズンゴールドンマラソン(アテネ)で公式計時を担当



1990年 CSR
年間顕彰制度「シチズン・オブ・ザ・イヤー」創設

1990-1999 (進化)

1993年 時計
電波時計

世界初の多局受信型アナログ式クォーツ電波時計。



1993年 宝飾
シチズンパール

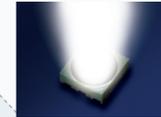
業界に先駆け、独自の品質評価基準を設定し消費者へ開示。



2002年 LED

カメラ付携帯電話向け照明用チップLED

世界初の携帯電話用フラッシュLEDを開発。これを機に携帯電話にフラッシュが搭載。



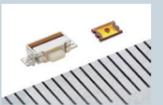
2018年 CSR

社会貢献活動派遣制度開始

2000-2009 (共生)

2015年 スイッチ
世界トップクラスの薄型・小型スイッチ

スマートフォンやウェアラブル端末など小型機器向けに活躍。



2016年 時計
光発電エコドライブウォッチ「Eco-Drive One (エコドライブワン)」

薄さ1.00mmのムーブメントを内包した世界最薄2.98mm(設計値)の光発電ウォッチ。



2005年 CSR
国連グローバル・コンパクトに署名



2009年 情報機器
液晶表示サーマルプリンタ「CT-S801」



「シチズン社会貢献活動派遣制度」

シチズングループでは、企業は人で成るという考えのもと、これまでも従業員に様々な成長の機会を提供してきました。また人々に愛される製品やサービスを生み出していくには、社会や世界を知り、視野を広げ、学んだことを活かし、新たな価値観を取り入れて組織を活性化することが重要だと考えています。

100周年を迎える2018年をシチズングループの更なる進化のきっかけの年とすべく、新たな取り組み

として「シチズン社会貢献活動派遣制度」を開始しました。この制度は、シチズングループの従業員が国内外の各所に赴き、その地域における社会課題と向き合い、支援活動を行うもので、今年度は、7カ所で、「学習・教育」「環境」「災害支援活動」の分野を中心に、支援活動を行います。この派遣制度は、シチズングループが次の100年も社会に貢献し続けるために、毎年継続していきます。

シチズン独自の取り組み「CITIZEN First Watch(はじめての時計)Project」

「CITIZEN First Watch Project」とは

「シチズン社会貢献活動派遣制度」において、最も力を入れていく活動のひとつが、シチズングループのルーツであるものづくりの技術を通じ、ものづくりの楽しさや時の大切さについて学んでもらう時計工作教室「CITIZEN First Watch(はじめての時計)Project」です。

シチズングループの海外拠点のあるタイやフィリピンでは、子どもの教育格差が大きいのが問題となってい

ます。また、日本国内において、岐阜県可児市には、海外から移住した両親を持ち、言葉の壁から不就学となる子どもが多くいます。そうした子どもたち自らの手で作った時計が、これからの時を刻み、自分の将来に夢を描けるようにとの思いを込めて、自分だけのオリジナル時計制作を通して、次の世代を担う子どもたちにもものづくりの達成感と、新しいことを学ぶ喜びを知り視野を広げてもらう機会を提供します。



フィリピンでのFirst Watch Project

派遣先と内容活動

プロジェクト名	訪問先	活動内容
1. 子ども支援プロジェクト	フィリピン オロンガボ市	「CITIZEN First Watch Project」他
2. 外国にルーツを持つ若者のキャリア育成プロジェクト	岐阜県可児市	「CITIZEN First Watch Project」他
3. マングローブ植樹	カンボジア カンボット州	環境保全
4. 森林保全ボランティア	栃木県市貝町	環境保全
5. 過疎・高齢化地域のコミュニティサポート	長野県飯島町	環境保全
6. 被災地の復興支援	宮城県石巻市	災害支援
7. 子ども支援プロジェクト	タイ コラート県	「CITIZEN First Watch Project」他



関連情報 「創業100周年記念サイト - 社会貢献活動 -」

<http://www.citizen.co.jp/100th/contribution/index.html>

参加した従業員からの声

私がこの社会貢献活動に参加した理由は、フィリピンの貧困層に位置する人々がどのような生活をしているのか、実際に現地に足を運び、生活を肌で感じ、生の声を聞くことで、その地域の人々が何を求めているかを知りたかったからです。今回の活動は、親から虐待やネグレクトを受け、一時保護施設で暮らす子どもたちへの支援と交流でした。渡航前から「時の大切さ」を伝える資料を考案し、時計の針付けの練習を重ねて本番に臨みました。本番当日は、子どもたちが本当に喜んでくれるか不安な面もありましたが、「世界にひとつだけのオリジナル時計」を身に付けた時の子どもたちの表情が忘れられません。

シチズン時計マニファクチャリング 桑原 泰斗

また、普段交流する機会が少ないシチズングループのメンバーと活動や寝食を共にし、何でも話し合うことで、今までより一層グループとしての絆が深まったように思います。

この活動を一過性のものにせず継続させるために、活動の様子をグループ全体に広め、1人でも多くの方が参加し、各々がこうした経験を今後の仕事に活かすことで、企業価値向上へ寄与できればと考えています。



派遣先からの声



シチズンの時計を普段から愛用している私は、今回のプロジェクトをとっても楽しみにしていました。子どもたちにとっても、参加者のシチズングループの従業員の方々にとってもはじめての経験。時計づくりを通して心と心、笑顔と笑顔が繋がった瞬間に立ち会えたことは幸せでした。

NPO 法人アクション 代表 横田 宗氏

今回の活動に参加した従業員の方からは、シチズングループ全体に愛着が持てるようになったという声も聞きました。NPO と企業のパートナーシップは企業が NPO を支援するものではなく、それぞれの組織に良い相乗効果を生んでいき、より良い社会を創っていくものだと思います。この取り組みが長く続くことにより、多くの子どもたちに笑顔そして未来への希望を生み出していくことを期待しています。

シチズングループの中期経営計画と事業活動

『シチズングローバルプラン2018』最終章 「真のグローバル企業」への最終ステップ

シチズングループは、世界で勝ち抜くグローバル企業になることを目指し、2013年より中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」を開始しました。製造革新を進め収益力強化を図るとともに、時計事業を中心とし、工作機械事業を第2の柱とした新たな成長戦略を推進したことで、前半の3カ年は順調に推移をしましたが、後半の3カ年は外部環境の変化等に

影響を受けたことにより、目標達成は不透明な状況にあります。最終年度である2018年度は、新たな成長領域の模索にも着手するとともに、次期中期経営計画の助走期間と位置づけ、事業横断的に、シチズングループとしてのシナジーを発揮し、グループ一体体制を強化していきます。

中期経営計画 事業ポートフォリオ

- 時計事業
改めて**グループ成長の核**と位置づける
- 工作機械事業
時計事業に次ぐ**第2の柱**へと育成
- 小型精密部品事業
次なる成長事業へ
- デバイス / 電子機器 / その他事業
利益向上による経営の安定
1. 体質の強化 2. 勝てる製品への集中 3. 他社との連携強化

2018年度重点課題

2018年度を新中期経営計画の助走期間と位置付け、次なる取り組みを加速

Top Lineを上げる

ボリュームゾーンの市場シェアと数量の拡大

消費者との接点である
流通への対応力を強化する

セグメンテーション戦略

マルチブランド戦略の深化

成長に向けた投資を加速

米国ディズニーリゾートと公式時計契約を締結

- ・世界中の幅広い世代のブランド認知度向上へ
- ・米国外のディズニーリゾートへ提携拡大を交渉中

製造革新と合理化等に伴う設備投資

多様化するニーズへ対応する製造革新

更なる製造力の
強化を図る

- ムーブメント
 - ・部品及び製品の徹底したコストダウン
 - ・部品加工の自動化及び合理化
- 完成品の生産性向上
- 自動化の推進
- 生産工程の効率化
- 検査の合理化
- 最適生産方法の構築

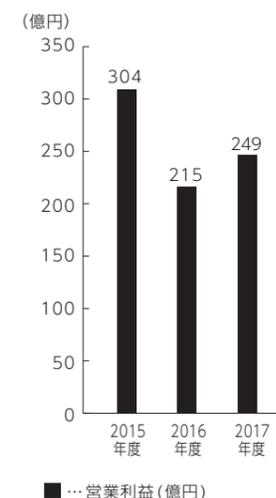
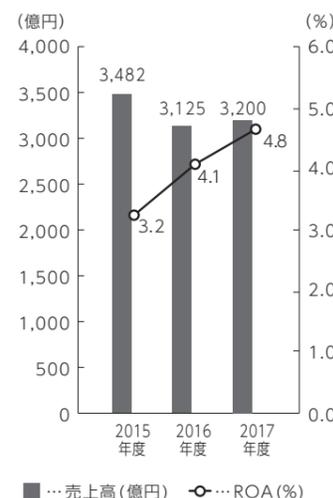
シチズングループの財務実績

2017年度は、緩やかな回復傾向にある国内経済や、雇用環境の改善が続き回復の兆しを示す米国、英国のEU離脱による見通し不透明な欧州、中国をはじめとして景気の持ち直し基調が見られるアジアなどの経済状況の中、中期経営計画のもと製造革新を進め収益力強化を図るとともに、真のグローバ

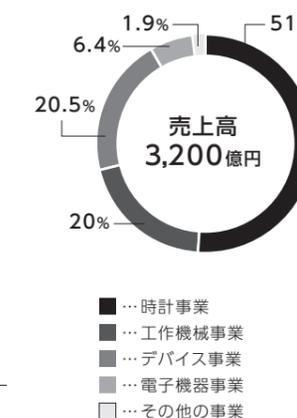
ル企業となるべく時計事業を中心に新たな成長戦略を推進してまいりました。

その結果、売上高は3,200億円、営業利益は249億円と増収増益となりました。また、経常利益は266億円、親会社株主に帰属する当期純利益は193億円となり、ROAは4.8%となりました。

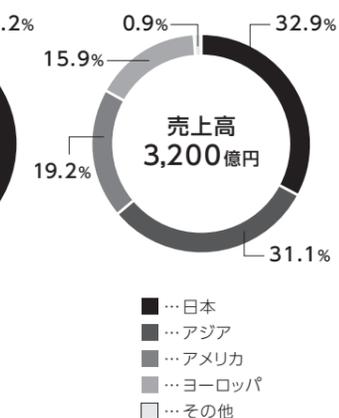
収益性情報



事業別売上高比率



地域別売上高比率



2018年3月時点

シチズングループの事業基盤

シチズングループでは、創業以来、時計事業を通じて培ってきた、製品をより小さく精密にする技術や、消費電力の少ない製品づくり等、シチズングループならではの高い技術を活用し、他のコア事業においても新たな価値を提供しています。

その他の事業

シチズングループならではの精密技術を活かしてつくられる高品質なジュエリーは、永く身に付けられ、日常を彩るものとして、多くの人々に愛されています。また、アイススケート場等の運営を行って、市民の憩いの場づくりにも貢献しています。

電子機器事業

時計事業から引き継いだ精密加工・組立技術を活用してつくられたPOS・バーコードプリンターと高精細デジタルフォトプリンターは、各種店舗や工場など、社会の様々な場面で活躍しています。また、電子血圧計や電子体温計を中心としたヘルスケア製品は、人々の健康管理をサポートし、健やかな暮らしづくりに貢献しています。

デバイス事業

照明用LEDや、スマートフォンのスイッチ、液晶などの身近な電子機器等に組み込まれる部品であるデバイスの製造には、時計事業で培ったシチズンならではの精密技術が活かされています。製品の低消費電力化と長寿命化を可能にし、人々の生活をより便利で快適にするだけでなく、地球環境への負担も軽減します。

時計事業

世界中で愛される時計づくりを目指してきたシチズングループにとって、時計はものづくりの原点です。現在も多くの方々から支持される光発電技術「エコ・ドライブ」など、世界初の革新的な製品をはじめとし、新たな機能を備えたモデルも生み出し続けています。

工作機械事業

医療や自動車、ITなど幅広い業界で必要不可欠な部品をつくる工作機械は、今日の技術の進歩や社会の発展を支えています。変化の時代において多様化するニーズに応える細やかな技術を発揮しています。

シチズングループのCSR活動

CSRに対する基本的な考え方

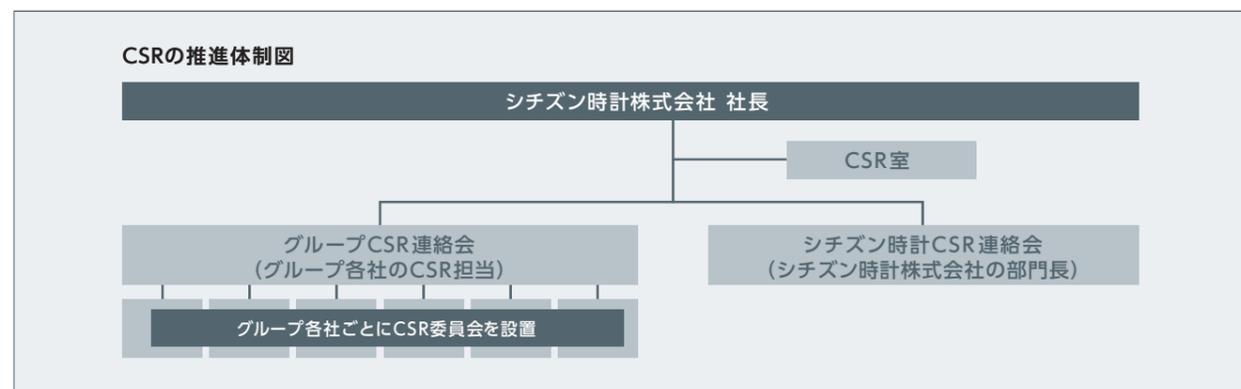
シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」との企業理念に基づき、「シチズングループ行動憲章」を定めています。この「シチズングループ行動憲章」を従業員一人ひとりに浸透させ、実践することを通して、社会課題の解決に貢献することを「CSR活動」と捉えています。

「市民に愛され親しまれるものづくり」を通じて世界の人々の暮らしに広く貢献するという思いは、シチズングループの創業以来の原点です。そしてシチズングループは、良い製品を提供するだけでなく、すべての企業活動を通じて社会の要請に応え、必要とされ続ける企業であることを目指しています。

CSRの推進体制

シチズングループは、事業持株会社のシチズン時計を中心に、「シチズングループ行動憲章」の浸透展開を図り、従業員一人ひとりが、自らの原点を忘れず、社会のためにできることを日々積み重ねていけるよう、全員参加型のCSR活動を実践しています。シチズン時計の監査・CSR部CSR室(以下、CSR室)を中心とし、各グループ会社のCSR委員会やCSR

担当部門と連携し、情報共有を図っています。定期的にグループ各社のCSR担当部門が集まって開催するグループCSR連絡会では、グループ全体としての活動の方向性や施策について協議するほか、各社の取り組み状況について確認を行うなど、グループ内でのベストプラクティスの共有も行っています。



シチズングループのマテリアリティと「持続可能な開発目標」(SDGs)

2017年度、シチズングループは、国際社会の一員かつ、「真のグローバル企業」としての責任を果たし、持続的に成長していくにあたり、シチズングループが優先的に取り組むべきマテリアリティを選定しました。国連の「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals) や、国連グローバル・コンパクト、ISO26000、EICC (現RBA)、GRIスタンダード等のCSR/サステナビリティに関する原則・指針を参照するとともに、社会やステークホルダーにとって重要な社会課題を網羅的に把握し、また、シチズングループの企業理念や行動憲章、中期経営計画等の事業戦略と照らし合わせ、特に重要度の高い課題を特定し、マテリアリティとして整理しました。

シチズングループの従業員を中心に、次の100年に向けてシチズンのあるべき姿について「座談会リレー」(参加者122人、2018年4月時点)で対話を深めました。このことを通じて、長期的かつ積極的に社会課題の解決に取り組むべく、「社会貢献活動の促進」を7つ目のマテリアリティとして追加しました。今後は、取り組みをより実効性のあるものとするために、各マテリアリティに具体的な目標を設定していきます。また、各マテリアリティを、国連の「持続可能な開発目標」に紐づけることで、持続可能な社会の重要性を再確認するとともに、シチズングループが事業活動を通じて貢献できることを改めて明確にしています。

■ コーポレート・ガバナンスの強化

シチズングループの企業価値の継続的な向上を目指し、グループ全体での効率的な業務執行、および監督体制の構築・経営の透明性・健全性の確保のため、組織や社内制度を整備します。



■ リスクマネジメントの徹底

シチズングループ横断的、あるいは個々の事業を取り巻くあらゆるリスクの予防と、緊急事態発生時に従業員や地域社会の安全に配慮し事業を継続していけるよう、リスクマネジメントを推進します。



■ コンプライアンスの徹底

シチズングループ行動憲章の浸透の徹底を基軸として、経営の根幹としてのコンプライアンスの徹底を、グループ全体で推進します。



■ 働きやすい職場環境づくり

多様性を認め合い、また互いの能力を高め合う企業風土を強化します。誰もが安心・安全に働ける職場づくりを実践します。



■ 責任ある調達への推進

グループ全体での調達活動の最適化を目指し、お取引先とともに、サプライチェーンにおける社会課題の解決を目指します。



■ 環境イノベーションの促進

シチズングループの製品やバリューチェーンの事業プロセスにおいて、環境負荷の低減に努めます。



■ 社会貢献活動の促進

シチズングループの従業員は、国内外の各地域における社会課題と向き合い、「学習・教育」「環境」「災害支援活動」の分野を中心に、社会貢献活動に取り組むことで、地域社会との共生を目指します。



ステークホルダーとマテリアリティ

2017年度のCSR活動のハイライト

シチズングループでは、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を具現化した「シチズングループ行動憲章」の実践を、CSR活動と位置付けています。2016年度に「シチズングループ行動憲章」を改定し、2016年10月の日本語版と2017年1月の英語版の発行に続き、2017年4月には8カ国語の翻訳版を発行しました。

2017年度のCSR活動は、これら行動憲章の浸透・展開を重点課題としました(p.16「シチズングループ行動憲章」の浸透徹底)をご参照ください。また、シチズングループでは、行動憲章の各章に紐づけて「CSR活動目標」を設定し、その目標の達成に取り組んでいます。以下に、2017年度の取り組みの一部を報告しています。

グループ体でのCSR活動の目標と取り組み状況

シチズングループでは、昨年のマテリアリティの設定を受け、グループ各社においてマテリアリティを踏まえ、「シチズングループ行動憲章」に紐づけた「CSR活動目標」を設定し、各職場において、責任を持ってその目標の達成に取り組んでいます。各目標

への取り組みは、自己評価を行うことでPDCAにつなげています。以下に、2017年度の取り組みからシチズングループのマテリアリティ(重要課題)に関連したものを抜粋しています。

□ 2017年度 CSR活動目標・実績と今後の課題 (抜粋)

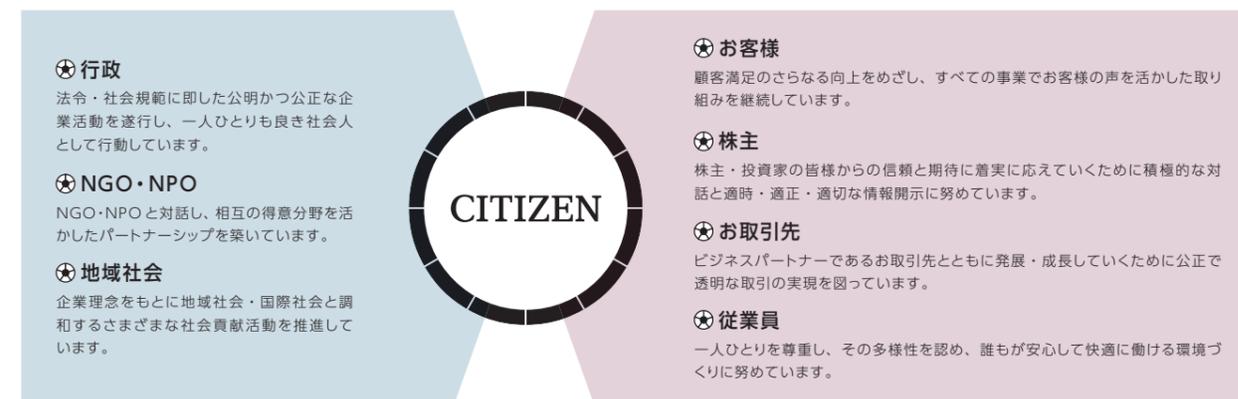
行動憲章 / マテリアリティ	CSR活動目標	自己評価	実績と今後の課題
【1条】 コーポレート・ガバナンスの強化 リスクマネジメントの徹底 コンプライアンスの徹底	① 翻訳版を用いた海外主要拠点への展開	A	① 海外拠点への浸透展開のため翻訳(中、独、仏、伊、西、葡、タイ、ベトナム)版を発行し、海外拠点41回、延べ4,126人に展開。 ② eラーニングの実施はシチズン時計のみ、グループ会社は次年度に実施する。
	② eラーニング教材を活用した研修の実施	C	
【2条】 コンプライアンスの徹底	品質、環境に配慮した製品・サービスを提供する	D	シチズン電子における、不適切行為・不適正行為を受け、グループ品質コンプライアンス委員会を設置しモニタリング等を通じてコンプライアンス強化を図る。
【3条】 責任ある調達推進	「シチズングループCSR調達ガイドライン」の展開	B	グループ統一のガイドラインを発行し、サプライヤーへの展開を開始。取り組みの遅れている会社もあるので、グループとして一体感のある取り組みを目指す。
【4条】 働きやすい職場環境づくり	人事制度の整備と有給休暇取得率の向上、および女性活躍推進	A	改善は着実に進んでおり、これからは課題解決能力を備えた人材の育成に力を入れることで、シチズングループの成長につなげていくことが課題。
【5条】 環境イノベーションの促進	環境配慮型製品・サービスの提供	A	長寿命化や、耐久性の観点から時計の長期使用性を追求している。今後も人と環境に配慮したもののづくりを通じ、開発に努めていく。
【8条】 社会貢献活動の促進	100周年事業として社会貢献活動派遣の検討と試行(国内6件、海外3件)	A	地域における社会課題と向き合う点で有効である。「社会貢献活動派遣制度」として毎年実施していく。

※ 自己評価の評価基準は、(A:目標通り、達成できた B:ほぼ達成できた C:まだ課題が残る D:実施することができなかった)の4段階です。

ステークホルダーとの関わり

シチズングループは、様々なステークホルダーに支えられながら企業活動を行っています。また、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を実現するために、日々ステークホルダーとコミュニケー

ションを図っています。社会から信頼を得ながら、価値を提供し続けることができる企業を目指し、ステークホルダーの皆さまとの関わりを大切にしています。



ステークホルダー・エンゲージメント

シチズングループは、社会への提供価値を最大化するためには、様々なステークホルダーの要望・期待を経営に取り込み、的確に応えることが重要であると考え、ステークホルダーとのコミュニケーションを図ることで、企業理念の具現化を目指しています。

2017年度は、特に、創業100周年を機にグループ従業員が様々なテーマに関して話し合う「座談会リレー」を行う等、次の100年に向けてシチズングループが一体となって成長していくために、従業員との対話を深めました。

ステークホルダー	エンゲージメント方法 / 内容	実績 / 評価	対応 / 計画
お客様	シチズン時計お客様時計相談室に寄せられるご意見、ご要望への対応	お客様時計相談室へのご意見数 8,312 件	お客様の声を活かした商品、改善の検討、今後の課題、計画
	公式WEBサイト、賞品WEBサイトで会社情報 事業内容の発信 各種SNSで会社情報、事業内容の発信	Facebookフォロワー数約 1,530,000人 (シチズン時計)	お客様に役立つ情報の発信と公式 SNS でのコミュニケーション
株主	株主総会 / 投資家との意見交換 / 各種レポートを通じた情報開示 / 決算説明会の実施 / 投資家向けにWEBサイトを通じて情報発信	株主数 28,282 人 / 投資家との個別ミーティング 148 回	ESG に関する情報開示を通じた株主価値の向上
お取引先	CSR 調達ガイドラインに関する説明会実施	説明会は計画通り実施	CSR 調達監査の実施
	販売店への展示会での製品情報の提供	展示会用の情報発信ツールが好評を得て、販売店にて活用	相互発展のための情報共有と関係の構築
従業員	100 周年記念座談会の実施 / 従業員満足度調査の実施 / 上司との面談 / 労使間協議 / 社内イントラネット	座談会への参加従業員数 122 人 / 全 22 回 (2018 年 4 月現在)	従業員満足度の向上 / ワークライフバランスの制度拡充 / 安心して働ける職場環境の整備 / 最大限の能力を発揮できる環境の整備
NGO/NPO	社会貢献事業での連携 / NGO の活動報告会を開催	協働での社会貢献事業の実施回数 22 回	ダイアログの実施を検討 / 社会課題を学ぶ機会としてワークショップの実施を検討
地域社会 / 行政	地域貢献活動 (時計組立教室の実施、寄付やスポンサー活動を含む) / 地域のイベントへの参加 / 工場見学の受け入れ	美化活動への社員参加 94 回 / 工場見学の受け入れ 149 回 / 時計組立教室の開催 54 回 / 社会貢献の寄付金額 45.6 百万円	地域の方々を招待した事業所内イベントの開催 / 相互理解を図り、安定した地域社会形成への貢献 / 事業を通じた地域貢献活動の充実

コーポレート・ガバナンスの強化・リスクマネジメントの徹底・コンプライアンスの徹底

グループガバナンスの強化について

シチズングループでは、2013年度より、中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の遂行を進め、グローバルでビジネスを展開する企業として、グループガバナンスの一層の強化に努めてきました。その一環として、中期経営計画の後期3年間の開始にあたる2016年度に、企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」を具現化し、シチズングループの一員として、どう行動するべきかの原理原則を定めた「シチズングループ行動憲章」を改定しました。この行動憲章を各国語に翻訳し、国内外グループの全従業員に対する浸透活動を行ってきました。その一方で、2017年度はシチズン電子株式会社において一連の不適切行為が判明しました。シチズングループでは、二度とこのような問題を繰り返さないために、

グループ全体で、ガバナンスと品質コンプライアンスの一層の強化に取り組みます。

この取り組みをより実効性のあるものにするために、外部有識者より構成される「グループ品質コンプライアンスモニタリング委員会」を設置し、専門的見地からの意見・助言を受ける体制を整える等、再発防止に向けた対応を進めています。

また、コンプライアンス違反の未然防止・早期発見のために内部通報制度及び内部監査の実効性向上に向けた改善にも取り組んでいきます。

関連情報 「第三者委員会からの調査報告書の受領及び当社の対応等についてのお知らせ」
<http://www.citizen.co.jp/files/20180209to.pdf>

シチズングループ行動憲章

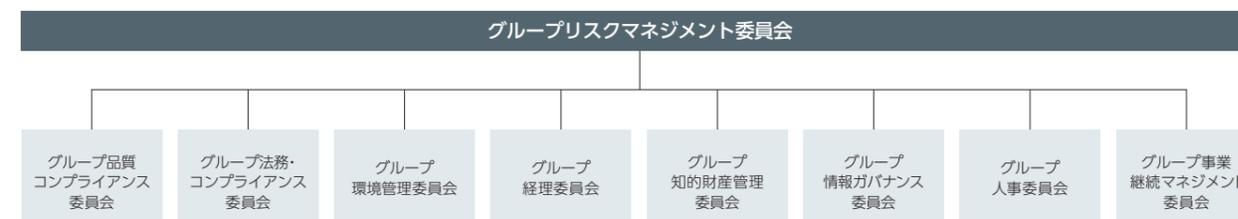
1. 社会に対する誠実な姿勢を持ち、シチズングループの企業価値の向上を図ります。
2. 安心・安全、品質、環境に十分配慮した製品・サービスを提供します。
3. 公正、透明、自由な競争、責任ある商行為を実践します。
4. 人権と多様性を尊重し、安全で働きやすい職場をつくります。
5. 環境保全の重要性を認識し、自主的かつ積極的に取り組みます。
6. 会社資産を適正に管理・保護します。
7. 会社の持続的な存続に反する行動は避けます。
8. 良き企業市民として、地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指します。

CITIZEN GROUP

「グループ品質コンプライアンス委員会」の設置

シチズングループ全体の品質コンプライアンスの強化策を検討・策定するために、新たに「グループ品質コンプライアンス委員会」を設けました。同委員会では、外部有識者の意見・助言を参考に、グループ各社の品質保証担当役員による討議を行い、品質に

関するグループ統一の指針策定を目指しております。またグループ全員の認識の共通化を確実なものとするために、上記指針に関する研修・教育および監査を定期的実施し、グループ全体で品質コンプライアンス意識の向上を図ります。



「シチズングループ行動憲章」の浸透徹底

2016年10月に、シチズングループの従業員の行動の拠り所と位置づけた「シチズングループ行動憲章」を改定し、初年度は国内従業員を対象に、続く2017年度は海外拠点へ浸透させるため、英語を含めた9カ国語版を作成し、各国拠点へ配布するとともに、行動憲章の重要性に関し社長のビデオメッセージを配信しました。

また、国内外56拠点にて、全98回の説明会を実施し、総数7,357人の従業員が参加しました。さらに、各拠点において、行動憲章の推進担当者を配置し、国や地域の状況を考慮したアクションプランを策定し、行動憲章を根付かせるための活動を展開しました。

時には、シチズングループの沿革や製品説明を交え、会社についての知識を深めることで、行動憲章の理解と遵守意識の向上につなげています。

創業100周年を迎える2018年度は、今一度シチズングループの原点に立ち返り、この行動憲章の実践を地道に行っていくことで、次の100年に向けた企業価値の向上に取り組むとともに、持続可能な社会の発展に貢献していきます。



広州冠電子有限公司(中国)での説明会の様子



シチズンヨーロッパ(ドイツ)での説明会の様子

グループとしての総力を発揮できる体制づくりを目指して

2013年に策定した中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」では、生産性向上や人材力強化を重点課題のひとつとして掲げ、人事制度の改革に取り組んできました。シチズン時計は、長きにわたり離職率が1%程度にとどまってきたほか、産前産後および育児休業後の復職率は原則100%であり、社内配偶者の転勤等への帯同にともなう「帯同休職」においては数十年前から実施する等、従業員が長く働くことのできる職場環境を提供してきました。近年では、「風土づくりとしくみづくりは車の両輪」であるとの考えのもと、更に生産性や人材力を強化する風土づくりに寄与する人事制度の充実を図ってきました。



また、「シチズングローバルプラン2018」の後期に当たる2016年度以降は、シチズン時計の事業持株会社化により、グループの本社機能を一本化し、求心力を向上させることで、グループとしての総力を発揮できる体制づくりを目指してきました。事業の異なるグループ会社間のシナジーを意識しつつ、将来のグループの成長を牽引する人材の育成を目指し、グループローテーションによる配置転換や、グループ一括での採用活動にも取り組んでいます。更に今後は、従来通りの働きやすさに加え、成果を出した従業員が評価され、モチベーションの向上につながることもまた、働きやすい会社には不可欠であると考え、評価制度や給与制度の整備を進めていきます。評価されることで競争意識を持ち、社外に目を向ける気運を醸成することで、この激変する時代の潮流に飲まれるのではなく、変化の波を捉え、自ら考え、対応できる課題解決能力が備わった人材の採用や育成に力を入れることで、シチズングループの成長につなげていくことが課題であると考えています。

また、シチズングループでは、属性に抛らず、すべて

2017年度は、会社と本人が希望すれば、育児や介護等の事情を理由に退職した従業員の、5年以内の復帰を可能とする「ジョブ・リターン制度」や、「育児・介護者のためのフレックスタイム制」「時差勤務制」等の柔軟な働き方を可能とする制度を導入するとともに、ノー残業デーや全社会議時間実態調査、会社が費用補助をする自己啓発に業務改善習得を目的としたメニューを追加する等の改善策を実施することで、残業時間の削減にも取り組みました。また、年次休暇の取得を促進し、2015年度より従業員個別に年次休暇の計画取得制度を導入したことにより、従業員全体の平均取得日数が2017年度は13.31日となり、2016年度の11.91日と比較し着実に成果が上がっています。

の従業員の働きやすい環境づくりを目指しています。シチズン時計においては、女性の活躍を推進するため、人事部にダイバーシティプロジェクトチームを編成しています。育児や介護中の従業員との定期的なランチミーティングを行うなど、きめ細やかなコミュニケーションを図ることで、従業員のニーズに対応する等、すべての従業員がその能力を十分に発揮できるよう支援をしています。また、ハラスメント防止の取り組みとして、社内セミナーの開催等従業員への啓発活動や、「グループ懲戒会議」の新設を通じ、懲戒処分案件の削減を目的としたグループ間の情報共有や統一規程の作成を進めています。これらの取り組みが、外部機関より評価され、2017年6月より、MSCI日本株女性活躍指数(WIN)*の構成銘柄に選定されています。シチズングループは、今後も様々な観点から、従業員の働きやすさを考えた職場環境づくりを進めていきます。

* MSCI日本株女性活躍指数(WIN)とは、モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社(MSCI)による、性別多様性に優れた企業を対象に構築される株価指数。

調達活動におけるお取引先との連携の強化



シチズングループでは、時計をはじめとしたものづくりが企業活動の根幹を成しています。中期経営計画の「シチズングローバルプラン2018」で掲げた「真のグローバル企業」を目指す上で、製品自体の価値のみならず、原材料の調達先や製造委託先まで含めたサプライチェーン全体に至るまで、製造業として責任を持つ必要があるという考えから、それまではグループ各社が個々に進めていたCSR調達の取り組みをグループ全体で本格始動してきました。2016年3月の「シチズン時計CSR調達ガイドライン」の発行に続き、シチズングループとして、調達活動におけるお取引先との連携を強化するため、2017年4月に、グループ統一の「CSR調達ガイドライン」を発行しました。その後、「グループCSR調達連絡会」を開催し、CSR調達が重視されている社会的背景や、他企業や業界の動向について知るほか、「CSR調達ガイドライン」の内容に関するディスカッション等を実施しました。「グループCSR調達連絡会」には、グループ各社の調達部門とCSR部門から11社、29人が参加しました。今後も継続して、勉強会や情報交換を行っていきます。

グループ統一の「CSR調達ガイドライン」の発行以降、シチズングループ各社ではお取引先に対し、同ガイドラインの展開を行ってきました。先行して「CSR調達ガイドライン」を発行したシチズン時計では、中国の華南地区の生産拠点で、外装に用いる部品を調達しています。2017年度はこの中より、継続的にお取引のあるケースやバンド、文字板を供給する40社に対し「CSR調達ガイドライン」を発行し、お取引先より「承諾書」の回答を受けています。また、ムーブメントの製造を行うシチズン時計マニュファクチャリングでは、時計に使用される直材、

直部品を中心に重要な副資材を購入しているお取引先に対し同ガイドラインを展開し、2016年度、2017年度を通じ、142社より回答を受けています。同ガイドラインにおいて定めるうち、環境に関わる内容については「グリーン調達」の一環で、環境マネジメント室とともに、お取引先のモニタリングを実施しているほか、新製品開発時等、必要に応じ、開発部門がお取引先を訪問して状況を確認しています。

今後は、残りのお取引先にも同ガイドラインの展開を続けるほか、現時点では新規の取引開始時と、月次および年次で実施しているサプライヤー評価において、「CSR調達ガイドライン」に即した評価の導入や、ガイドラインの遵守状況の確認を検討しています。

また、工作機械の製造を行うシチズンマシナリーでは、2017年6月にお取引先企業への方針説明会において、「CSR調達ガイドライン」について説明を実施し、「CSR調達ガイドライン」をお取引先に展開するにあたっての年度計画を策定しました。今年度は、生産部材供給先を中心に特定したガイドライン送付先の70.8%からの回答を受けています。2018年度は、更にお取引先の対象範囲を広げた対応を計画しています。対象とする企業が増える中、限られた人員で、実効性の高い取り組みを行っていく体制を社内構築していく予定です。

また各社において、紛争鉱物への対応も行っており、シチズンファインデバイスにおいては、調査が必要な材料・部品を洗い出し、各調達先に対し、毎年継続して調査依頼を行うことで、その重要性を認識し対応を進めています。

環境イノベーションの促進

中期経営計画「シチズングローバルプラン2018」の策定に合わせ、2013年に「シチズングroup環境中期計画」*1を定め、グループ全体で環境への取り組みを進めています。

シチズングroupにおける時計づくりの根底には、大切に長く使い続けてもらうことが環境負荷低減につながると考え、長寿命化や耐久性の観点から時計の長期使用性を追求しています。1996年4月に腕時計で初の「エコマーク」を取得した電池交換の要らない「エコドライブ」や、CO₂排出量の公開等5つのエシカルコミットメントを公表した「CITIZEN L」*2を生み出してきました。また、多くの製品に用いられている、耐アレルギー性のチタン外装や、傷のつきにくい表面処理や変質しない潤滑油等のメンテナンスフリー化も、長く使える製品創出を実現しています。

現在では、スマートウォッチをはじめ、従来型の時計とは異なる製品が流通しており、時計を専門としないメーカーとの競争に迫られています。100年にわたり時計をつくり続けてきた、低消費電力や小型化の経験とノウハウを活かすとともに、グループ内の連携強化や、外部組織との協働をもって、こうした変化へ対応しています。例えば、エネルギー変換効率の向上や、新たな蓄電技術の開発を目指し、大学や他企業とのオープンイノベーションを通じ、室内照明に適したソーラー・パネルや2次電池の開発を進めています。機械式時計の分野では、スイスのグループ会社であるラ・ジュール・ペレ社 (Manufacture La Joux-Perret S.A.)、フレデリック・コンスタント社 (Frederique Constant SA)との協業も進めており、動力源のぜんまいを改良する事で、持続時間が従来

の42時間から60時間への長期化が見え、製品への応用が期待されています。

開発部門自体の環境負荷削減としては、シミュレーション活用による試作回数削減や、試作品ダミーの光造形での検証、3Dデジタルによる検査の効率化などに取り組んでいます。2017年度、部門で設定した環境マネジメントプランの各削減目標を達成しています。

一方で製造プロセスに関する取り組みも進めており、製造時に必要な薬品や素材、研磨材等のメディアについて、より人体への影響や環境影響の少ないものを選ぶ調達段階への環境配慮に加え、デジタル技術の活用を積極的に行っています。今後は、更なる「IoT」の活用を課題としており、これまで以上に外部組織とのタッグが必要と考え、部品メーカーや、ロボットメーカーとの共同開発を進めています。

腕時計の概念を変えた光発電技術である「エコドライブ」を実現した省電力化技術、チタン素材やその表面硬化処理技術は、40~50年かけてコツコツと積み重ねてきた成果であり、こうしたものづくりを目指す意識こそが「イノベーション」を可能とすると考えています。シチズングroupは、今後も人と環境に配慮したものづくりを通じ、企業価値を継続して高めていけるよう、開発に努めていきます。

関連情報

*1 「シチズングroup環境方針と中期計画」

<http://www.citizen.co.jp/social/approach/environment/vision.html>

*2 「CITIZEN L」の情報公開

<http://citizen.jp/l/special/disclosure/index.html>



シチズングroupの社会貢献活動

シチズングroupでは、「シチズングroup行動憲章」において、「良き企業市民として、地域社会に貢献し、地域社会との共生を目指します」と謳っています。企業理念である「市民に愛され市民に貢

献する」の実践の一環として、ステークホルダーの皆さまとの連携を通じ、今後も地域貢献活動を通じ、社会の発展に貢献していきます。

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」の表彰

関連情報

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」
<http://www.citizen.co.jp/coy/index.html>

シチズン時計は、「市民社会の発展や幸せ、魅力づくりに貢献し、市民社会に感動を与えた良き市民」を称え顕彰するため、1990年にシチズン・オブ・ザ・イヤーを創設。これまで、社会貢献、国際貢献、自己実現、人命救助、環境保護等の活動に取り組んだ85名の方々にこの賞を授与してきました。28回目の表彰となる2017年度は、子どもたちの成長や花と緑あふれる故郷を願い、55年にわたり苗木を贈り続けている清水辰吉様、障がいのある外国人旅行者に役立つ日本観光情報サイトを制作・運営し

ているグリズデイル・バリージョシュア様、引退した競走馬の命を守り、医療や教育などのセカンドキャリアを支援している角居勝彦様の3名が受賞しました。

これからも、社会に感動を与えてくれる「市民」に光を当て、その活動を称え、エールを送っていきます。



時計づくりを通じた子ども就業支援

シチズン時計とシチズン時計マニュファクチャリングでは、児童養護施設で暮らす子どもや障がいを持つ子どもを対象に、時計の分解組立教室を開催し、時計づくりを活かした就業支援を行っています。このプログラムでは、時計の分解や組立を通じて「ものづくりの楽しさ」を知るとともに、「働くとはどういうことか」「どのような職業があるのか」を学び、将来を考えるきっかけを提供しています。シチズングroupでは積極的に従業員の参加を推奨し、社会

課題を学ぶ機会としており、これまでこのプログラムに16年間で延べ420人の従業員が講師役として参加しています。シチズングroupは、子どもが夢と希望を持てる社会の実現に向けて、これからも継続して応援していきます。



「Because I am a Girl キャンペーン」への賛同

関連情報

「Because I am a Girl キャンペーン」
<http://citizen.jp/product/xc/girl/index.html>

シチズン時計は、国際NGOプラン・インターナショナルが推進する「Because I am a Girl キャンペーン」に2013年より賛同し、女性腕時計ブランド「シチズンクロスシー」の売上の一部を寄付することで、途上国の女の子や女性たちを応援しています。

2017年度は、「ネパールにおける月経衛生管理プロジェクト」の事業に対し、約1千万円の支援を行いました。

ネパールの村落に根づく月経にまつわる課題について、モラン郡にある8つの村落において、女性の

尊厳を守るための意識啓発や、男女別のトイレなどの建設、月経衛生管理に関するトレーニングを実施し、女性への差別や偏見を軽減する活動に取り組みました。シチズン時計では、今後も世界中の女の子のための応援を続けていきます。



コミットメントと社会からの主な評価・企業概要

「国連グローバル・コンパクト」への参加

シチズングループは、2005年4月より、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」(UNGC)への参加を表明しています。「シチズングループ行動憲章」改定の際には、その内容に照らすなどUNGCは、シチズングループのCSR活動の基礎ともなっています。

また、シチズングループは、UNGC参加企業で構成されるグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)の「サプライチェーン分科会」「SDGs分科会」に参加しています。分科会では、有識者の講演会によるCSR関連の最新動向や各社の事例を共有すると同時に、参加企業各社の幅広い業界における経験をもとに、様々な企業のCSR推進

を支援する各種アウトプットの制作に取り組んでいます。

分科会で得られた知見はシチズングループのCSR活動にも反映させています。

2017年4月からは、GCNJへ社員の出向協力も行うなど、国際社会の一員かつ「真のグローバル企業」として、これからもこの取り組みを進めていきます。



「持続可能な開発目標」への貢献

「持続可能な開発目標」(SDGs: Sustainable Development Goals)は、2030年までに貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などの社会課題を解決することを目指し、2016年からスタートしています。17の目標、169のターゲットからなるSDGsの達成には、国連に加盟するすべての国と人々が当事者意識を持ち、互いに協力し合いながら、行動を起こしていくことが必要とされています。

シチズングループは、国際社会の一員かつ「真のグローバル企業」として、「市民に愛され市民に貢献する」ものづくりの実現を通じて、SDGsと関連づけながらシチズングループのマテリアリティに積極的に

取り組み、持続可能な社会の形成に寄与してまいります。



※シチズングループのマテリアリティとSDGsの関連性については p.12 をご覧ください

1. 貧困をなくそう 2. 飢餓をゼロに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 6. 安全な水とトイレを世界中に 7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任 つかう責任 (持続可能な消費と生産) 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう

社会からの主な評価

シチズングループでは、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念を実践した事業活動を行ってきました。決して社会の規範に反したり、お客様やお取引先に不信感を抱かせたり、不誠実であったりしてはならないという考えのもと、持続可能な社

会の発展に貢献するため、社会課題の解決に向け様々なCSR活動に取り組んでいます。このような考え方や取り組みについて、外部機関にも評価されており、ESG関連の株価指数等に選ばれています。



SNAM サステナビリティ・インデックス^{*1}

2017年より、SNAM サステナビリティ・インデックスの構成銘柄に選定されています。

※1 SNAM サステナビリティ・インデックスとは、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 (SNAM) 独自の、ESG評価と株式価値評価を組み合わせで作成された株価指数。



モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)^{*2}

2017年度1月より、MS-SRIの構成銘柄に選定されています。

※2 モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI) とは、モーニングスター株式会社が国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定し、その株価を指数化した国内初の社会的責任投資株価指数。



MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

2017年6月より、WINの構成銘柄に選定されました。

※ p.17 参照ください。



紺綬褒章の受章

シチズングループでは、大学・高校生の海外留学を官民協働で支援する「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」に継続して支援をしており、その公益への貢献が認められ、2017年9月に紺綬褒章を受章しました。

企業概要 (2018年3月時点)

社名	シチズン時計株式会社	資本金	32,648百万円
創立	1930年5月28日(創業1918年)	従業員数	16,015名(4,867名)
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12	※上記は連結の就業人員で、()内は外数での臨時雇用者です。	

シチズングループ一覧

国内グループ (主要会社)

シチズンマシナリー株式会社 / シチズン電子株式会社 / シチズンファインデバイス株式会社 / シチズン・システムズ株式会社 / シチズン時計マニュファクチャリング株式会社 / シチズンリテイリング株式会社 / シチズンTIC株式会社 / シチズン宝飾株式会社 / 株式会社東京美術 / シチズンプラザ株式会社 / シチズン時計鹿島株式会社 / シチズンタ張株式会社 / シチズンマイクロ株式会社 / 株式会社ミヤノ・サービス・エンジニアリング / シチズン電子タイムル株式会社 / シチズン電子取引株式会社 / 株式会社フジミ / シチズン千葉精密株式会社

関連情報 「海外グループ (主要連結会社)」

<http://www.citizen.co.jp/company/group/group02.html>



お問い合わせ先

シチズン時計株式会社 監査・CSR部 CSR室
〒188-8511 東京都西東京市田無町 6-1-12
TEL 042-468-4776 WEBサイト <http://www.citizen.co.jp/social/index.html>

2018年6月発行



COMMUNICATION ON PROGRESS

This is our **Communication on Progress** in implementing the principles of the **United Nations Global Compact** and supporting broader UN goals.

We welcome feedback on its contents.

CITIZEN はシチズン時計株式会社の登録商標です。